

パウロ

2018 年本試

問 7 パウロの思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

17

- ① 人間は、善を望んでいるはずなのに、望まない悪を行ってしまう。そこからの救済は、キリストへの信仰によるほかなく、人類全体の罪を担ったキリストに従い、私たちもまた、隣人への愛を実践すべきである。
- ② 人間は、善を望んでいるはずなのに、望まない悪を行ってしまう。そこからの救済は、キリストへの信仰によるほかなく、神と契約したキリストのように、私たちもまた、神との契約である律法を正しく遵守すべきである。
- ③ 人間は、肉体の情欲に引きずられ、望まない悪を行ってしまう。そこから救済されるためには、自らの運命を受け入れたキリストのように、私たちもまた、罪のない本来の自己を再発見し、それを受け入れるべきである。
- ④ 人間は、肉体の情欲に引きずられ、望まない悪を行ってしまう。そこから救済されるためには、苦しむ人々を癒したキリストに従い、私たちもまた、善行を積むことによって、神から義とされるよう努力すべきである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 7	17	①	3

2016 年追試

問 5 次のア～ウは，キリスト教において説かれた，信仰をめぐる様々な思想についての説明であるが，それぞれ誰のものか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑧のうちから一つ選べ。 15

ア 厳格な律法主義では罪の自覚しか生じないと考え，人が義とされるのは律法の行いではなく信仰によると主張した。

イ 誰が救われるかは神の意志によって予定されているのであり，信仰をもつことそのものが神の与える恩寵であると主張した。

ウ 理性により得られる真理と信仰により得られる真理は，調和するのではなく区別されるべきであるとして，哲学と神学の分離を主張した。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-------------|---|------------|
| ① | ア | ヨハネ | イ | マルクス・アウレリウス | ウ | トマス・アキナス |
| ② | ア | ヨハネ | イ | マルクス・アウレリウス | ウ | ウィリアム・オッカム |
| ③ | ア | ヨハネ | イ | アウグスティヌス | ウ | トマス・アキナス |
| ④ | ア | ヨハネ | イ | アウグスティヌス | ウ | ウィリアム・オッカム |
| ⑤ | ア | パウロ | イ | マルクス・アウレリウス | ウ | トマス・アキナス |
| ⑥ | ア | パウロ | イ | マルクス・アウレリウス | ウ | ウィリアム・オッカム |
| ⑦ | ア | パウロ | イ | アウグスティヌス | ウ | トマス・アキナス |
| ⑧ | ア | パウロ | イ | アウグスティヌス | ウ | ウィリアム・オッカム |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	15	⑧	3

2015 年追試

問 2 次の文章は、贖罪と愛の実践に関するパウロの考えについての記述である。

～に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

パウロは、もともと律法を厳格に守ることを求めるに属していた。しかし、彼は、の声を聞いて回心し、イエスの十字架での死を、人々の罪を贖うための死であると理解した。彼の考えによると、贖罪を信じることにより、人間は神に受け入れられ、のであり、そのとき人は、罪を抱えた自己中心的な人間から、愛を実践する人間へと生まれ変わるのである。

- | | | | | | | |
|---|---|-------|---|---------|---|--------|
| ① | a | パリサイ派 | b | 神殿の祭司 | c | 義とされる |
| ② | a | パリサイ派 | b | 神殿の祭司 | c | 預言を授かる |
| ③ | a | パリサイ派 | b | 復活したイエス | c | 義とされる |
| ④ | a | パリサイ派 | b | 復活したイエス | c | 預言を授かる |
| ⑤ | a | ストア派 | b | 神殿の祭司 | c | 義とされる |
| ⑥ | a | ストア派 | b | 神殿の祭司 | c | 預言を授かる |
| ⑦ | a | ストア派 | b | 復活したイエス | c | 義とされる |
| ⑧ | a | ストア派 | b | 復活したイエス | c | 預言を授かる |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	12	③	3

2014 年本試

問 6 次のア～ウは、キリスト教における、人間の欲望についての考え方である。
その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

16

ア パウロは、分かっているながら欲望のために悪を行ってしまう人間のあり方に悩み、そこからの救済は福音への信仰によるほかにないと考えた。

イ アウグスティヌスは、生まれつき人間にそなわっている自由意志により、欲望から悪を犯してしまう傾向を克服できると考えた。

ウ イエスは、欲望を抱いて女を見る者は、心のなかで既に^{かんいん}姦淫をしていると述べ、情欲を克服した善き人だけが、他者を裁くことができると主張した。

- | | | | |
|---|-----|-----|-----|
| ① | ア 正 | イ 正 | ウ 正 |
| ② | ア 正 | イ 正 | ウ 誤 |
| ③ | ア 正 | イ 誤 | ウ 正 |
| ④ | ア 正 | イ 誤 | ウ 誤 |
| ⑤ | ア 誤 | イ 正 | ウ 正 |
| ⑥ | ア 誤 | イ 正 | ウ 誤 |
| ⑦ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 正 |
| ⑧ | ア 誤 | イ 誤 | ウ 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	16	④	3

2014年追試

問3 律法と罪についてパウロが記した次の文章を読み、その内容を踏まえて、パウロの思想についての記述として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 13

兄弟たち、あなたがたも、キリストの体に結ばれて、律法に対しては死んだ者となっています。それは、あなたがたが、他の方^{かた}、つまり、死者の中から復活させられた方のものとなり、こうして、わたしたちが神に対して実を結ぶようになるためなのです。……今は、わたしたちは、自分を縛っていた律法に対して死んだ者となり、律法から解放されています。その結果、文字に従う古い生き方ではなく、“霊”に従う新しい生き方で仕えるようになっているのです。

では、どういうことになるのか。律法は罪であろうか。決してそうではない。……律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったでしょう。たとえば、律法が「むさぼるな」と言わなかったら、わたしはむさぼりを知らなかったでしょう。

(新約聖書「ローマの信徒への手紙」より)

- ① 律法を守ることで人間が本当に救われるわけではない。人間は、既にキリストへの信仰により救われて、罪から完全に解放されているので、もはや自らの罪深さに苦しむことはない。
- ② 律法は人間に本当の罪とは何かを教える。人間は、律法で定められた罪に陥らないために、貧しい者や病気の者に金品を施す等の、具体的な行動によって神の愛を表さねばならない。
- ③ 律法を守ることで人間が本当に救われるわけではない。人間は、律法によっては、悪をなすほかない自らの罪を知るだけであり、律法ではなく、キリストへの信仰によって救いに至る。
- ④ 律法は人間に本当の罪とは何かを教える。人間は、十字架につけられて死んだキリストと同様、他者の贖罪のために自らを犠牲にすることで、律法の根底にある神の愛を実践することができる。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問3	13	③	3

2013 年本試

問 2 罪深い人間の救済に関するパウロの義認の教えの説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

13

- ① 罪深い人間が義とみなされるのは、イエスの十字架の犠牲に倣った身体的な苦行によるのみである。
- ② 罪深い人間が義とみなされるのは、イエスの贖罪に示された神の愛への信仰によるのみである。
- ③ 罪深い人間が義とみなされるのは、信仰・誠実・愛というキリスト教の三元徳によるのみである。
- ④ 罪深い人間が義とみなされるのは、父・子・聖霊の三位が一であるという教義への精通によるのみである。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 2	13	②	2

2010 年本試

問 1 文章中の **5** に入れるのに最も適当なものを、次のそれぞれの①～④のうちから一つずつ選べ。 **5**

パウロもまた、はじめは **5** に代表される従来の律法を厳格に守ることに固執していた。

- ① 三 宝
- ② 四 書
- ③ 五 戒
- ④ 十 戒

問 7 イエスの教えと出会うことを通して自らの傲慢ごうまんさに気づかされたパウロは、イエスの福音の中に新しい生を見いだすこととなった。新しい生の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **11**

- ① 律法を知らない異邦人に対しても、回心を促し、預言者によって新しくされた律法に生きる喜びを伝道する生き方
- ② 過去のパリサイ派としての生き方を悔い改め、自ら罪を贖あがなうことで、将来は救われるという希望にあふれた生き方
- ③ 律法を守ることのできない者であっても、罪を赦ゆるす神の愛を信じることによって、互いに相手を大切にする生き方
- ④ 罪人つみびとを排除するのではなく、憐れみあわの心をもって接し、律法的に正しい者へと成長を促す、教父にふさわしい生き方

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	5	④	2
第 2 問	問 7	11	③	3

2008 年追試

問 6 パウロの事績に関する説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① イスラーム世界から伝来したアリストテレスの哲学を習得することによって，ギリシア人の自然理解をキリスト教的に解釈した。
- ② イエスの直弟子ではないが，その教えを深く理解し，新約聖書に収められた重要な手紙を書いて，キリスト教が世界宗教になる基礎を据えた。
- ③ イスラエル民族の指導者として，その民族をエジプトから脱出させ，その途中，シナイの山上で神から啓示された律法を受け取った。
- ④ イエスに呼びかけられてその弟子となり，イエスが捕らえられた時には弟子であることを否定したが，後に弟子として殉教した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	10	②	2

2005 年本試

問 7 パウロについて、その基本思想として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

8

- ① 人間は律法の行いによってではなく、イエス=キリストを政治的指導者として崇^{あが}めることによって、罪から救済される。
- ② 人間は律法の行いによってではなく、イエス=キリストを偉大な預言者として敬うことによって、罪から救済される。
- ③ 人間は律法の行いによってではなく、イエス=キリストによる教説を知ることによって、罪から救済される。
- ④ 人間は律法の行いによってではなく、イエス=キリストによる贖罪を信じることによって、罪から救済される。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 7	8	④	3